

## 平成 19 年度 第 1 回意見交換会報告

日時：平成 19 年 8 月 11 日（土） 13:00. ～ 16:00

場所：TKP 御茶ノ水ビジネスセンター

出席者（敬称および所属略 順不同）：

中野 肇、中後晶久、五十嵐英則、平林憲次、長内悦子、小坂芳雄、伊藤英武、高山洋一、山口 靖、石川英一、清水洋一、上山知栄子、田中正昭、岩橋尊嗣、武居廣雄、金子 健、相部紀夫、山本明和、小松 繁、大林真人、神谷和彦、林 浩昭、北村清明、

以上 23 名

### 1. 講演報告

嗅覚測定 of 尺度をより細分化する試みについて講演をお願いした。

演題「嗅覚測定法における希釈段階間の尺度の細分化について」

講師 樋口能士殿（立命館大学理工学部）

これまでの低濃度の環境臭気の測定・評価に用いられていた方法の問題点を説明され、新しく“ヒトの嗅力を妨げる程度（SOI）”を計測して環境大気を評価する手法を紹介された。その方法での個人閾値の算定用尺度の等間隔性についての研究状況も説明された。環境の大気を、大気質がヒトの嗅覚を妨げない程度に正常であること（望ましい大気質の必要条件）という視点で評価する考え方である。本来、ヒトや他の生物が嗅覚を有しているのは、危険（山火事や食品腐敗など）の察知など外界情報を獲得することである。

臭気指数はにおいが「ある」状態の計測であるが、臭気指数変化（SOI）はにおいがあっても「嗅ぎ分けられない」状態の計測である。

臭気指数変化の測定における課題として次の点を説明された。

#### ① 適切な標準臭気物質の選択

対象となる環境空気によりことなる。化学反応が起こると不都合。

#### ② 高い測定精度が必要となる

わずかな差を測定する。

道路近傍大気を対象として測定した事例が説明された。

今後の検討課題は、さらなる誤差要因の排除（個人閾値の校正など）、繰り返し精度の検証、新しい環境測法として適用の可能性の検討、であることを説明された。

### 2. 海外情報について

事務局より中国における状況が説明された。（中国における商取引上の注意点など）議論の中で、動的オルファクトメーター、セントメーターの改良などの情報が話題に上った。